



話のたまご

NEWS LETTER

エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS

2018 8月号

話のたまご 検索

INDEX ① 感動の先にある未来へ続く5つの活動 ② 共生社会に向けた参加型イベント ③ 片手で料理を楽しむための工夫 ④ 障がい者が生き生きと働ける明日へ

東京2020オリンピック・パラリンピックへ そして、その先へ

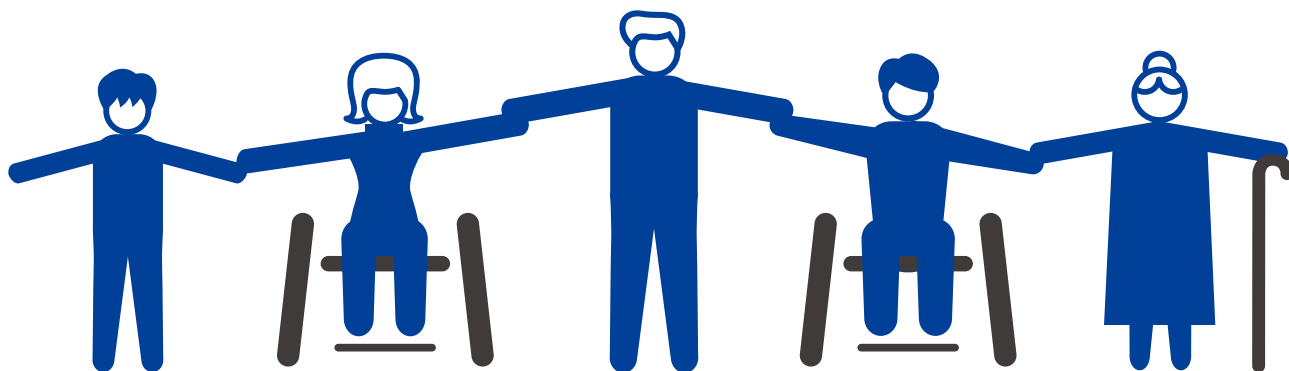


TOKYO GAS



東京2020オフィシャルガス・ガス公共サービスパートナー

共生社会の実現に向けた 未来をつくる取り組み



東京2020オリンピック・パラリンピックまで、あと2年。そこで今回は、誰かが誰かの力になり、
支え合って生きる共生社会の実現に向けた、東京ガスのさまざまな取り組みをご紹介します。



見ているのは「感動の先にある未来」 東京ガスだからできる 5つの活動

東京2020オリンピック・パラリンピックを共生社会へのきっかけと捉え、その実現に向けた取り組みを進めている東京ガス。そんな私たちだからこそできる、5つの活動分野があります。「豊かで快適な暮らし・街を支えるサービス提案等の事業展開」「エネルギー面での先進的な取り組み」「社会全体の課題への地元企業としての取り組み」「エネルギーの安定供給・セキュリティ対応」「障がい者スポーツ支援」の5つです。こうした活動を通して、共生社会を実現し、地域発展に貢献していきます。

私たちが見ているのは「感動の先にある未来」。それは誰もがお互いを尊重し支え合う社会。誰もが生き生きと安心して快適に暮らせる社会。私たち東京ガスは、そのような暮らしや街づくりのお手伝いをしたいと思っています。



頑張る人に、 いいエネルギーを。

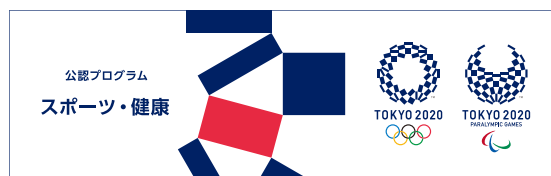
たくさんの人の暖かさや応援のエネルギーを「7つの炎」のシンボルマークで表現しました。そのエネルギーは次の誰かを動かす力となります。未来を明るく照らす炎のバトンをつないでいきたいと考えています。

東京ガスは、東京2020オリンピック・パラリンピックオフィシャルパートナー（ガス・ガス公共サービス）です。



取り組み・その1【みんなのチャレンジ!】 共生社会実現に向けた 参加型イベントを開催 「ユニバーサルフェスタ」

誰もが暮らしやすい「共生社会」に向けたチャレンジを体感する参加型イベントを東京2020オリンピック・パラリンピックの1,000日前に合わせて開催しました。2017年10月の「豊洲ユニバーサルフェスタ」と同年11月の「新宿ユニバーサルフェスタ」です。東京都をはじめとする自治体やおよそ20の企業・団体と連携し、ユニバーサルをテーマにした暮らし(衣・食・住)やスポーツなどの体験・展示を行い、合計で約4,000名が来場しました。会場は活気に満ち、笑顔でいっぱい。誰もが豊かで快適に過ごせる暮らしや街を支えるサービスを多くの方々に実体験していただく場となりました。



新宿ユニバーサルフェスタ



ユニバーサルをテーマにした展示

相手のことを大切に考える 子ども記者体験や障スポ体験

「豊洲ユニバーサルフェスタ」では、13人の子どもたちがスポーツ記者になって、オリンピック・パラリンピアンのみなさんとともに障がい者スポーツやアイマスク体験をしながら突撃取材。みんなが知恵をしばりながらインタビューしました。「オリンピックで楽しかったのは何ですか?」「目が見えなくて困ることは何ですか?」そんな質問を選手たちに投げかけた後で、一生懸命に記事を書き、かわら版を作成。こうしたチャレンジ体験から、相手のことを考える大切さを学びとってもらえたようです。

また、「新宿ユニバーサルフェスタ」では車いすバスケットボール、車いすフェンシング、視覚障がい者5人制サッカー、パラ陸上競技(伴走マラソン)のパラリンピック競技などを体験する場を設けました。5人制サッカーを体験された方からは「まわりが見えないと不安でしたがガイドの声で安心できました」との声が寄せられ、相手の立場になってサポートすることの大切さに気づいていただけたようです。

2018年は豊洲で10月27日、28日に地域一体となったイベントを開催する予定です。



子ども記者体験でのかわら版作成の様子



アイマスク体験

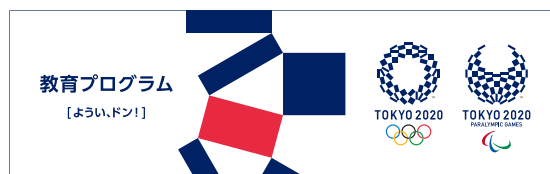


車いすフェンシング体験



取り組み・その2【片手で料理を楽しめる!】 いま話題の 「片手でクッキング」って?

脳卒中の後遺症による片まひやケガなどで片手が不自由になっても、料理を楽しめる企画です。片手で料理をする際の工夫をはじめ、便利な調理道具やレシピを紹介した冊子『片手でクッキング』を2月に発行。パラアスリートなどを招いて体験会を実施し、冊子で紹介しているメニューをみんなで作り、試食を行いました。また2017年6月から、義手を使う子どもたちを対象にした料理教室を、障がいのある子どもたちの成長を支え、その未来を育む支援をする団体とともに開催。子どもたちが新たなことにチャレンジする機会となる料理教室を今後も共同で実施する予定です。東京ガスでは、これからも「食」を通じた豊かな暮らしづくりをより多くの方に提案していきます。

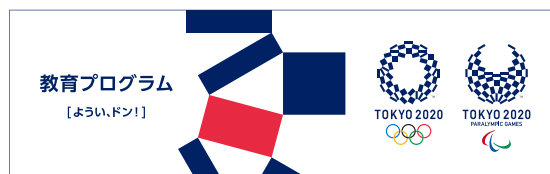


「片手でクッキング」体験の様子

「片手でクッキング」の小冊子ダウンロードと動画公開
<http://home.tokyo-gas.co.jp/shoku/torikumi/universal-cooking/index.html>

取り組み・その3【気づいて考える出張授業!】 次世代を育成する 「学校教育支援活動」

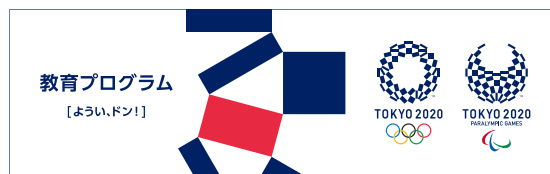
未来を担う子どもたちに、エネルギーと環境の大切さを伝えるため、2002年から学校教育支援活動を続けています。主体的・対話的な学習をサポートする出張授業、先生向け研修会、学習サイトなどを通じて、持続可能な共生社会の実現をめざす教育を推進。「都市ガスが家に届くまで」「はじめよう!エコ・クッキング」の2プログラムは「東京2020教育プログラム」に認定されました。



出張授業の様子

取り組み・その4【障がいへの理解を深める!】 小学生がランニングスタジアムに 集合!「校外学習型体験会」

新豊洲Brilliaランニングスタジアムでは、2017年12月、2018年2月に、小学生向けの「東京ガスのユニバーサルチャレンジ 校外学習型体験会」を行いました。障がいの疑似体験や障がい者スポーツの体験を通して、国・性別・年齢・障がいなど多様性の中で、お互いを理解し尊重し合う大切さを伝えています。



校外学習型体験会の様子



取り組み・その5【新しい農園OPEN!】

障がい者が働き 野菜や果物を育てる 「パッチョ農園」

東京ガスは2018年4月、障がいを持つ方々が働く「パッチョ農園」を千葉市花見川区にオープンしました。この農園は共生社会の実現をめざし、障がいを持つ方々が安心して生き生きと働ける場です。「パッチョ農園」の名前は、東京ガスグループ約600名のイントラネットによる投票によって決定。投票時には250件を超える、心温まる応援メッセージも寄せられました。

6月現在で12名のスタッフが元気に働いています。収穫された野菜や果物は、東京ガスグループの各種イベントでの配布、子ども食堂への寄付など、東京ガスグループの社会貢献活動への活用を検討しています。



野菜の手入れをする様子

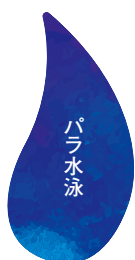


開園セレモニーの様子

所属アスリート

～人と人をつなぎ、明日を応援するエネルギー～

私たちは、明日をめざすアスリートたちを応援しています。頑張る人に、いいエネルギーを。そして、誰もがお互いのエネルギーになる社会へ。共生社会の実現に向けた東京ガスの取り組みは、「感動の先にある未来」へと続きます。



木村敬一選手

パラ水泳のエース
1990年・滋賀県生まれ
東京ガス株式会社



水上真衣選手

笑顔がトレードマークの期待の若手
1994年・東京都生まれ
東京ガス株式会社



中山賢史朗選手

挑戦するトライアスリート
1990年・兵庫県生まれ
東京ガスパイプライン株式会社



飯田純士選手

超攻撃型日本代表のキーマン
1993年・青森県生まれ
東京ガスエスネット株式会社
東京ガスライフバル川崎北



福島丈貴選手

世界で一番小さい代表ゴールキーパー
1993年・鹿児島県生まれ
東京ガスライフバル保谷株式会社
東京ガスライフバル西杉並



吉田拓馬選手

頼れるオールラウンダー
1994年・滋賀県生まれ
東京ガスクリエイティブ株式会社
東京ガスライフバル武蔵野



徳用万里奈選手

女子チームの輝く新星
1996年・石川県生まれ
東京ガスライフアサヒ株式会社
東京ガスライフバル石神井